

龍騰虎躍



龍騰虎躍 (りゅうてんこげつ)

龍が飛び立ち、虎が躍り上がる

沸きかえるような活気に満ちていく

世界中の隅々まで

平和で幸せな年でありますように

新春の御祝詞を申し上げます



新年のごあいさつ

理事長 沼田 雅博

新年あけましておめでとうございます。旧年中は私ども北陸経済研究所の活動に対し、格別のご支援、ご協力を賜り、心から御礼申し上げます。

2023年5月、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変更されて以降、以前の日常が少しずつ取り戻され、観光地やイベント会場の賑わいにとりあえず安堵する次第です。コロナ禍は私たちの生活を将に一変させました。正体不明、目に見えないモノとの闘いであり、感染リスクがある中で果敢に対峙された医療従事者、エッセンシャルワーカーの皆さんには心から感謝を申し上げます。

国内の経済活動が平時を取り戻す流れとなるなか、ロシアによるウクライナ侵攻は収束する気配がみられず、中東ではユダヤとアラブの闘争が再び激化する事態となりました。凄惨なニュースが毎日のように配信され、それが日常茶飯となっている異常さと、各国間の利害の対立が生命の危機を救えない状況、惨劇を抑止できない無力さを痛感し、ただ一日も早い平和の到来を切に願うばかりです。

昨年はAIが多分にクローズアップされた年でもありました。この新たなテクノロジーを何処まで利用していくのか、われわれはこの最新技術を御することができるのか、確信できるまでには相当の時間を要すると思われませんが、便利さの裏側にあるリスクが常々警鐘され、これに耳を傾けつつ進化させていくなれば、人口減少によって「縮む経済」への処方箋となるかもしれません。

このほか、円安や物価高、賃金上昇等々と課題は多く、国内事情だけでも枚挙に暇がない状況ではありますが、当地北陸における固有イベントとして、本年3月16日に北陸新幹線が敦賀延伸を果たします。新幹線によって新たにつながる各地では、2015年の金沢開業時における経験、その後の推移・実績などを踏まえながら、数々の準備を重ねてその日を迎えるものと思います。当研究所においても「再起動 北陸新幹線」と題し、年を跨いだシリーズ企画を掲載しておりますので、ぜひご一読賜れば幸いです。

この大型の交通インフラ投資を一時的なイベント効果に止めることなく、息の長い地域振興に結び付けていくことが肝要です。人流の変化がもたらすプラス・マイナス両面を冷静に把握しながら、今後の展開へとつなげていくことを期待する一方、次に控える関西圏との接続は計画どおりに進んだとして2046年、20年以上も先の話となります。この間、北陸地域内では一層の連携を進め、あるいは首都圏、沿線他県との関係を深めるなど、これからも取り組むべき事項は数多あり、本年の北陸新幹線延伸を次なるステップに向けた「スタートライン」として受け止めたいと考えています。

北陸経済研究所は民間のシンクタンクとして、調査・研究を以って偏りのない情報発信・提言を示していくことを使命としています。小誌でも「人手不足」「人財育成」「デジタル」といったヒトに関わるテーマを取り上げる機会が多くなりました。経営相談・講師派遣・セミナー開催など、社内教育におけるリソース不足を補うべく人材育成支援にも積極的に取り組み、北陸地域の活性化に貢献すべく活動してまいります。

本年が皆さまにとって良き年となりますことを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。